



74歳になった息子は、父が過ごした最期の地
「マーシャル諸島」をめぐる旅に出た。



タリナイ tarinae

大川史織 初監督作品
プロデューサー／藤岡みなみ

映画「タリナイ」

制作：春眠舎／配給：春眠舎／2018 | 日本 | カラー | デジタル | 93分

www.tarinae.com

春眠舎

MITOMO STUDIO
SHIBUYA



映画『タリナイ』は、カメラがぶれないとか
フォーカスが合っているとか技術的な問題をを超えて、
フィロソフィーが映画になっています。

「最後カナ」という言葉を書いた富五郎さん。
どれくらいの時間をかけて書いたのか、
最後の「ナ」を書いたときに、
これで生涯で書くべきことはぜんぶ書いた、
伝えるべきことは全部伝えた、
あとはかたちとして、心として伝わってくれよと、
そしてこのことを二度とだれも体験しないような世界に
きつとなってくれという切実な思いが、
映画を作った大川さんと映された勉さんや、
通訳や案内の人などの背後に見えてくるという、
たいへん優れた映画ですよ。

映画作家 大林宣彦

1945年4月。

ひとりの日本兵が

戦地マーシャル諸島で命を落とした。

栄養失調による飢えであった。

亡くなる数時間前まで書かれた日記と遺言は
戦後奇跡的に生き残った戦友から
遺族のもとへ届けられた。

2016年4月。

74歳になった息子は

マーシャル在住歴のある若者3人とともに
父が過ごした最期の地をめぐる旅に出た。

今もなお戦跡とともに暮らす島のひとびと。

マーシャル語の中に残る日本語。

「タリナイ」が意味するもの。

わたしたちが忘れようとしてきた記憶が
さまざまなかたちで問いかけてくる。

マーシャル諸島共和国

人口約5万人。そのうち約3分の2は米国本土やハワイ、グアム
で暮らす。29の環礁と1,200以上の島々からなる島嶼国。日本の
委任統治時代は、南洋群島のマーシャル群島と呼ばれ、
アジア・太平洋戦争では約2万人の兵士がマーシャル諸島で
命を落とした。

現在は世界有数のダイビングスポット。モモタロウ、カネコ、ヤマ
ムラなど、日本にルーツをもつマーシャル人も多い。



コイシイワ
アナタワ
迎えてくれたのは
マーシャルの歌でした

映画関連本



「マーシャル、父の戦場 —ある日本兵の日記をめぐる歴史実践—」

大川史織 編

みずき書林 / A5判並製・416頁 / 2,400円+税

案シ時モ 苦シ時モ

オ前達ハ 互ヒニ 信ジ合 嬉シイ事 分チ合ヒ——

1945年、南洋のマーシャル諸島で多くの日本兵が戦死した。そのなかの
ひとり、佐藤富五郎が死ぬ直前まで綴った日記と遺書は、戦友の手を経て
息子のもとへ渡り、73年の時を超えて解読されることになる。そこには、
住み慣れない島での戦地生活、補給路が絶たれるなかでの懸命の
自給自足、そして祖国で待つ家族への思いが描かれ、混乱と葛藤のなか、
自身も死へと向かう約2年間で精緻に記されていた。〈70年以上前
に「南洋で餓死した」日本人といまをつなぐ、〈想像力〉の歴史社会学。



長崎先行上映会【入場無料】

全国順次上映に先駆け、
長崎で上映会を開催します。

【日時】

2018年9月22日(日)

13:30 開場 / 14:00 上映

上映後、大川史織監督と

藤岡みなみプロデューサーのトークショーあり(予定)

【会場】

長崎歴史文化博物館

長崎市立山1丁目1番1号

web: www.nmhc.jp/

主催:

長崎県保険医協会

映画の詳細や最新情報は、公式Webをチェック。

www.tarinae.com

映画『タリナイ』ロゴデザイン:ワトナス 小田起世和 / ポスターデザイン:景色デザイン室 古庄悠泰